

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	16235
課題名	本邦における65歳以上の高齢者に対する婦人科がん治療における現状と問題点の調査研究 (JGOG 9003S)
研究期間	理委員会承認日 ～ 1年間
研究の対象	2015年1月～2015年12月に当院で婦人科がん治療を受けられた65歳以上の方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報 (詳細：初回治療情報、標準治療完遂の有無、合併症、未治療数等) <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織 (対象臓器等名：) <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他 ()
外部への試料・情報提供	<input type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内 (提供先：特定非営利活動法人 婦人科悪性腫瘍研究機構) (提供方法：情報の匿名化を行った上でウェブ登録) <input type="checkbox"/> その他 (提供先：) (提供方法：) データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。 対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。
研究組織	福井大学 医学部 産科婦人科 吉田 好雄 ほか 特定非営利活動法人 婦人科悪性腫瘍研究機構参加施設 199 機関 婦人科悪性腫瘍研究機構 公式ホームページ http://www.jgog.gr.jp/
研究の意義、目的	我が国では人口に占める高齢者の割合が年々増加し、がん患者においてもがん罹患患者の43%、がん死亡者数の60%以上を70歳以上が占めています。高齢者では各臓器の生理的な機能が低下し、多くの合併症を有していることなどから、耐治療能 (治療に耐える力) が定価しているため、治療に伴う合併症発生も増加あるいは遷延する可能性があります。一方で全身状態が良好な高齢者においては若い患者と同様の治療効果が期待できるため、高齢という理由だけで治療を縮小することは患者不利益に繋がる可能性があります。本調査では、65歳から74歳の前期高齢者、75歳から84歳の後期高齢者と85歳以上の超高齢者婦人科がん患者に対してどの程度標準治療が行われているか、治療法に差があるか、治療法選択をどのように行っているかを調査し、今後の高齢者治療の指針の基礎データとして役立つこととなります。
研究の方法	対象者の診療録から初回治療情報、再発時の状況、緩和治療の内容、転帰等についての情報を収集し匿名化の上でウェブ入力します

<p>その他</p>	<p>当研究は、婦人科悪性腫瘍研究機構の研究費で行われ、実施については、旭川医科大学利益相反審査委員会の審査と了承を得ています。また、本研究の経過を定期的に旭川医科大学利益相反審査委員会へ報告等を行います。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>旭川医科大学 産婦人科 片山 英人（研究責任者） 〒078-8510 北海道 旭川市 緑が丘東2条1丁目1-1 旭川医科大学 産婦人科学講座 TEL:0166-65-2111(内線 2562)</p> <p>研究代表者：</p> <p>福井大学 医学部 産科婦人科学 吉田 好雄</p>